

人と馬との関係性を考える

ーアニマルウェルフェアの観点からー

岡崎 晴大

日本近代競馬は賭け事としての楽しみ方や競走馬を応援するといった数多くの楽しみ方があると考えている。しかし、引退した競走馬の居場所がなく、殺処分されてしまうことがあるという問題を抱えている。

本論では、人と馬との関係性が近年では希薄になってしまっているために、引退競走馬の居場所がなくなってしまうのではと考え、現代競馬における引退競走馬の扱いについてアニマルウェルフェアの観点から論じている。さらに、三重県で行われた上げ馬神事において、馬が安楽死処分されてしまったというニュースがあったため、朝日新聞クロスサーチで、過去に馬が祭り関連で、どのような扱いを受けてきたのかを調べた。

現代の日本の競馬では、競走馬のうちはとても大切に育てられているが、競馬界から離れてしまうと、途端に居場所がなくなってしまうという事象が起こっていることがわかった。アニマルウェルフェアという観点から見ると、競走馬のうちは達成できているが、その後のケアというものが皆無であるということが明らかとなった。

アンケート調査を行って競馬でお金を賭けたことがある人などの集計をしたところ、想像よりも競馬に触れたことがある人が多く、肯定的に考えている人の方が多いという結果に驚いた。世間的な評価として、競馬はマイナスイメージを持たれているという先入観があったが、今回のアンケート調査によってそれほどマイナスな意見が多くはないということがわかった。

また、引退競走馬の殺処分についてどのように思っているのかという質問をしたところ、意外にも「仕方がない」という意見の方が多く見受けられた。そして、実際に馬を見たり触ったりしたことが「ある」と答えた人は36人(83.7%)、「ない」と答えた人は7人(16.3%)という結果もあり、「ある」と答えた人に対して、どこで見たり、触ったりしたことがあるかという質問をしたところ、「動物園」や「牧場」が13件近くあり、「親の実家」や「地元のお祭り」という意見も見られた。

ただ、近年では「ホースセラピー」であったり、引退競走馬の居場所を作ろうとしている動きが多く見られたことにより、今後の発展に期待できると感じた。そして、「ホースセラピー」を引退馬が多くいる福島県南相馬市で行われているということに大きな意味があると考えている。

今後の課題としては、引退した馬の居場所を準備すること、第2の居場所での良い環境作りということが大きな課題となるのではないかと結論づけた。